

[成果情報名]

スギ間伐材オガコを活用したクロアワビタケ栽培

[要約]

針葉樹間伐材オガコを培地基材としたクロアワビタケ菌床栽培培地の開発を行った。オガコの樹種はヒノキよりスギが適しており、また、加工直後のオガコより43日間以上屋外堆積をしたものが適していた。栄養剤はコメヌカ、フスマよりもオカラが適していた。

[キーワード]

クロアワビタケ、スギ、間伐材、オカラ

[担当機関名] 林業試験場 特用林産部

[連絡先] 0739-47-2468

[部会名] 林業部会

[分類] 研究

[背景・ねらい]

クロアワビタケ（写真）は台湾で栽培が盛んなきのこで、日本では台湾から輸入した蔓延済み菌床による生産が行われている。市場性の高い有望品目であるが、輸入菌床には品質変動などの問題があり、安定栽培のためには種菌作成から菌床培養、子実体発生まで全ての工程を含む一貫栽培の必要があるため、産学官共同による栽培研究を実施した。今回は間伐材の利用促進、培地作成コストの低減を目的としてスギオガコの培地基材への利用について、また栄養剤の種類、混合割合について検討した。

[研究の内容・特徴]

- ①スギ、ヒノキ間伐材オガコを0～133日間屋外堆積したものを培地基材として使用したとき、スギオガコのほうが培養日数が短く、同じ堆積期間では子実体発生量も多かった。（図1、表1）。
- ②スギオガコは屋外堆積したものを使用することで、培養日数が短縮された（図1）。
- ③スギオガコの粒径組成は、最多粒径 1.40～2.00mm のものが培養日数が短く、子実体の品質が良好だった。（図2）。
- ④培地栄養剤はコメヌカ、フスマよりオカラを使用したほうが栽培日数が短く、収穫量が多かった（図3）。
- ⑤オカラの添加割合はオガコ：オカラ＝3：1が適していた（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. スギオガコは御坊木材共販所のオガコ製造機で製造したものをを用いた。最多粒径 1.40～2.00mm のオガコは、機械のスピード設定を「5」にして挽いたものである。
2. 屋外堆積の効果は季節、降雨量・回数等により異なることが考えられる。

[具体的データ]



写真 クロアワビタケ栽培試験

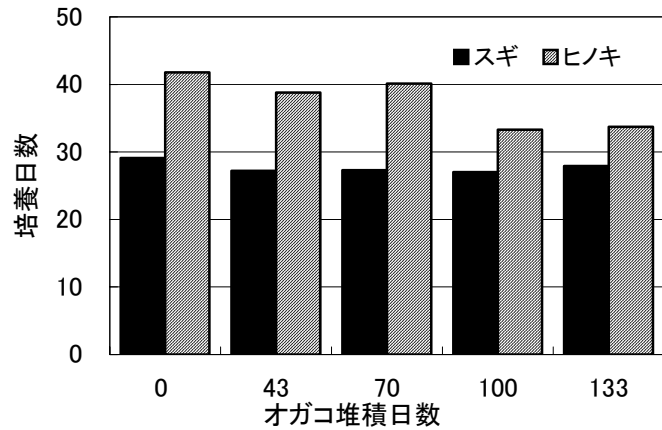


図1 オガコの樹種・堆積日数別培養日数

堆積期間	スギ	ヒノキ
0	44	36
43	37	32
70	36	32
100	44	39
133	43	36

※同樹種内での堆積期間別収穫量に有意差はみられなかった

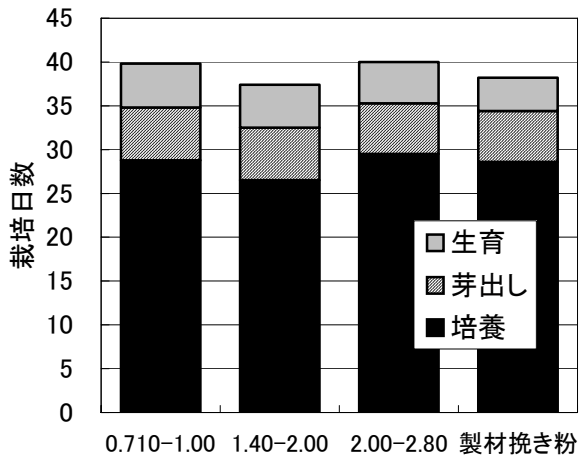


図2 オガコの粒径区分別栽培日数

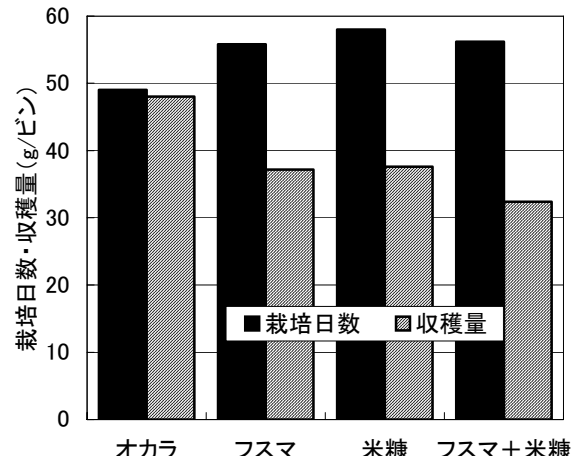


図3 栄養剤別栽培日数と収穫量

[その他]

研究課題名：クロアワビタケ栽培技術の高度化

予算区分：国委託

研究期間：平成15～17年

研究担当者：大槻国彦、岡田和久

発表論文等：日本きのこ学会第8回大会講演要旨集、同9回大会講演要旨集、

林業試験場だより第63号